

バウンティフルへの旅

ふりかえれば、甘く、せつなく、美しい。—人はいつか故郷へ帰る。



THE TRIP TO
BOUNTIFUL



監督:ピーター・マスターソン PETER MASTERSON

原作・脚本:ホートン・フート(舞台劇「バウンティフルへの旅」より) HORTON FOOTE

撮影:フレッド・マーフィ FRED MURPHY

音楽:J.A.C.レッドフォード J.A.C. REDFORD

美術:ニール・スパイスック NEIL SPISAK

製作:スターリング・ヴァンワグネン STERLING VANWAGENEN

ホートン・フート HORTON FOOTE

GERALDINE PAGE ジェラルディン・ペイジ

JOHN HEARD ジョン・ハード / CARLIN GLYNN カーリン・グリン

REBECCA DE MORNAY レベッカ・デ・モーネイ

KEVIN COONEY ケヴィン・クニー

1985年/アメリカ映画

A FILM DALLAS+BOUNTIFUL FILM PARTNERS PRODUCTION

配給:ヘラルド・エース/日本ヘラルド映画 Herald

'85年度アカデミー主演女優賞 (ジェラルディン・ペイジ) 受賞

この映画の魅力は本格的な映画であることだ！

すべての旅は素晴らしい！

ジェラルディン・ペイジの豊かで感動的な演技に感謝を！

バラエティ紙

デイリー・ニュース紙

L.A.タイムズ紙



■バウンティフルへ帰りたい
そこには失われた私がいる

それは満月の夜。ロッキング・チェアに揺られながら、ワッツ夫人は夢見心地だった。臉のうらに浮ぶのは遠い昔、幼い息子と遊んだ草原、バウンティフルの思い出…。そこへ嫁のジェシー・メイが入ってきて夫人をたたき起こすのだった。「あの年金の小切手はどこ？」

ワッツ夫人は出発しなければならぬ。もちろん行く先はバウンティフル。今度だけは誰も止めることはできない。スーツケースを用意し、息子夫婦が出かけると、そっと家を出てバス停留所へ向った。こうして、純情おばあちゃんの夢をさがす旅が始まったのです。

■心暖まるラストシーンに拍手を！

老人問題や嫁姑など家庭問題を扱いながらも、この映画はカラッとさわやかだ。それは年老いたワッツ夫人が若い心を見失わず、バウンティフルに出会うために時には失望し、時にはワクワクしてまるで20歳の娘のようにガタンと泣き笑っている。観客である私たちは、彼女とともに泣き笑いして、終わるまで彼女の姿から目を離すことができません。
老人と小描のさすらいの旅を描いた『ハリーとトント』(74)のハリーのように、人生に明るさを持って生きていこうとするワッツ夫人に拍手を送って下さい。

■新星レベッカ・デ・モーネイの魅力

脇役にも一流ところが勢揃い。母と妻の間に立つてオロオロする気の弱い息子ルーディに『アフター・アワーズ』(85)のジョン・ハード。夫をアゴで使い自分は昼間から遊び回っている嫁ジェシー・メイには、ブロードウェイ出身のカーリン・グリーンが演じている。

そして、この映画でキラリと光る演技をみせるのは新星レベッカ・デ・モーネイ。ワッツ夫人とバスで隣り合わせて意気投合する、人生をいま始めたばかりの女の子テルマは、モーネイにぴったりの役柄だ。『卒業白書』(83)でトム・クルーズの相手役としてデビュー。
『バウンティフルへの旅』は『暴走機関車』

(85)につき彼女の第4作目にあたる。
監督は新人ピーター・マスターソン。製作はロバート・レッドフォードが主宰するサンダンス・インスティテュートが行っている。

(上映時間) 1時間46分



バウンティフルへの旅

ミネートされること7回、ブロードウェイでは数々の栄冠を得ながら、映画界の最高荣誉であるオスカー像を手にするのは今回が初めてである。

ジェラルディン・ペイジを語るのに忘れてならないのは、『ジョーイ』(77)でのお母さんキヤレットティ夫人役だ。不治の病に冒される息子をさびしくしつけ優しく守る彼女の演技は、ドラマをいっそう盛り上げた。

夢見るおばあちゃんワッツ夫人は、ペイジが演ずることによって、生活から抜け出てきたような存在感のあるカワイイおばあさんになっている。



監督ピーター・マスターソン
原作脚本・ホルトン・フット
(舞台劇『バウンティフルへの旅』より)

撮影フレッド・マーフィー

美術ニール・スパイサック

製作スタウリング・ヴァンワグネン

ホルトン・フット

出演ジェラルディン・ペイジ/ジョン・ハード
カーリン・グリーン/レベッカ・デ・モーネイ

1985年/アメリカ映画

配給ヘラルド・エース/日本ヘラルド映画



ゴールデン・ウィーク

G・Wロードショー

特別鑑賞券 ¥1200発売中(当日 ¥1500均一の処)

シネマスクエア

とうきゅう

新宿ミラノ座横3F (232)9274

全自由席定員制 ● 入替制

※満席および上映中の入場はできません。

連日	12:00	2:20	4:40	7:00
----	-------	------	------	------

●毎金・土曜はレイトショー実施/PM9:10より